



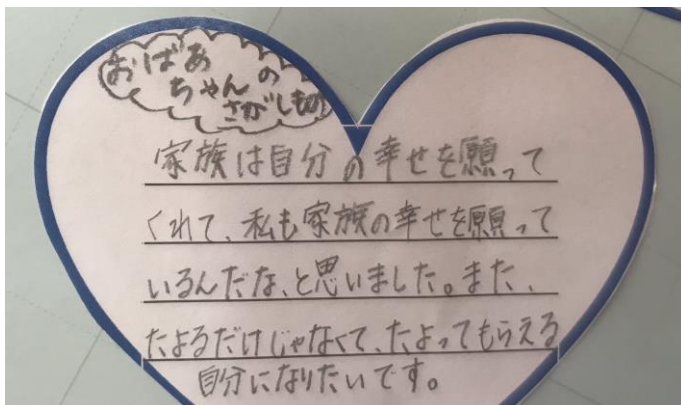
家族の幸せのために

家族のために役立つことって、どんなことだろう。

自分は、家族のために役立つことをしたことがあったらどうか。今までの自分を振り返ることができた道徳の時間でした。

時間の終わりには、「これからは、こうしたい。」という想いを綴りました。優しさに溢れたメッセージがたくさんありました。例えば、

- ・お手伝いをしていこう。
- ・生活で使えるものを作ってあげて、喜ばせてあげよう。
- ・親孝行をたくさんしていこう。
- ・家族に気を使おう。



- ・文句ばかり言うので、これからは言うてはいけない。
- ・家族が悩んでいたたり、悲しんでいたら元気付けるような事をしたり、言葉を言ったりしよう。
- ・おじいちゃん、おばあちゃんが病気になったら、優しくしよう。



みんなの心が

しっかり

形になりますように。

・今日のお話では、おばあちゃんがどんどん元気が無くなっていったけれど、おばあちゃんの家族を思う気持ちはたくさんあるから、優しくしてあげてほしい。ぼくもおばあちゃんやおじいちゃんに優しくしてあげたい。

お話の終わりには、次のようなフレーズがあります。

「わたしは、おばあちゃんがさがしものをしているような気がする。何をさがしているのかわたしにはわからない。けれど、見つかるといいな、おばあちゃんのさがしもの。」

認知症を患った祖母の車椅子を押しながら、主人公はそう考えます。

さがしものは、きっとおばあちゃんの「楽しかった記憶」なのでしょうね。

家族との楽しい記憶って、どんなものがあるのでしょうか。

おばあちゃんが何度も歌った子守唄を聞いた時の、子どもたちの何とも言えない笑顔と愛らしさでしょうか。

みんなは、どう想像したのでしょうか。

主人公になったつもりで考えた「これからの自分」

みんなの優しい心が形になって、

みんなの家族に伝わりますように。